

## 下伊那郡上村および伊那市西箕輪でヤマネを目撃

澤島 拓夫\*

A Yamane, *Glirulus japonicus* (Schinz) was found at Nishiminowa in Ina city and at Gyoja in Kami village  
Takuo SAWAHATA\*

\* 信州大学農学部応用きのこ学研究室 〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304

長野県下伊那郡上村行者、伊那市西箕輪羽広仲仙寺でヤマネを目撃した。これらは地上で目撃され、上村の個体は路上で車にひかれていた。ヤマネの目撃地点の周囲はスギやヒノキの人工林であった。

キーワード ヤマネ、哺乳類、天然記念物、伊那市、上村

### 1. はじめに

ヤマネ *Glirulus japonicus* (Schinz) は日本の本州、四国、九州等の山地の森林に生息する小型哺乳類の一種で国の天然記念物に指定されている。ヤマネは県下において低山帯から亜高山帯にかけて広く分布している(両角, 1974)。諏訪地方や佐久地方ではシネネコ、ヤマチン、マリネズミ、ヤマネズミなどと呼ばれている(宮尾ら, 1978)。両角(1974)は日本哺乳類雑記第3集に伊那市小黒日向で採集されたヤマネ1個体の計測値を記載しており、伊那谷にもヤマネが広く生息していると期待されるが、しかしながら、ヤマネは夜行性であるため生息の確認は容易ではなく、伊那谷における分布はほとんどわかっていない。そのため、目撃例などは、伊那谷におけるヤマネの分布を知る上で貴重な資料となるといえる。

著者は、1997年6月に下伊那郡上村行者で、1998年3月に伊那市西箕輪でヤマネを目撃したので報告する。

### 2. 生息確認場所と環境

下伊那郡上村行者(図1, 図2)

1997年6月12日、夜、雨で濡れた路面(国道152)にヤマネがひかれているのを目撃し、写真に撮影した(図3)。この道路は川と森林(スギの人工林)の間を通っており、川と道路の間に森林はなかった(図4)。また道路と森林の間はコンクリートの構造物により仕切られていた。ヤマネのひかれた場所から70mくらい離れたところに街灯(バス停がある)があった。

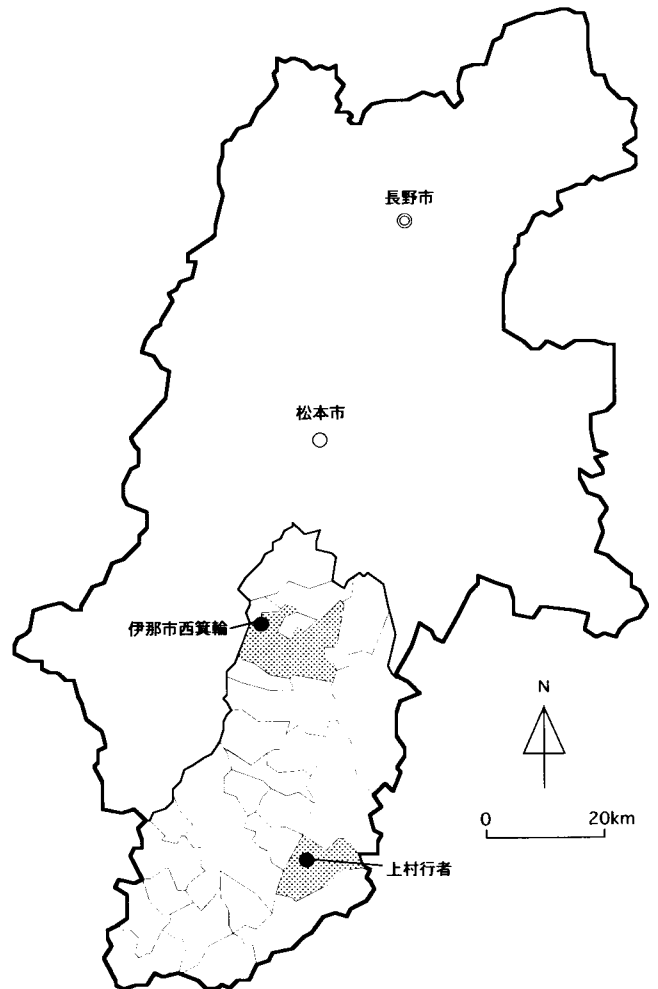


図1 ヤマネ目撃地点



図2 下伊那郡上村行者でのヤマネの目撃地点

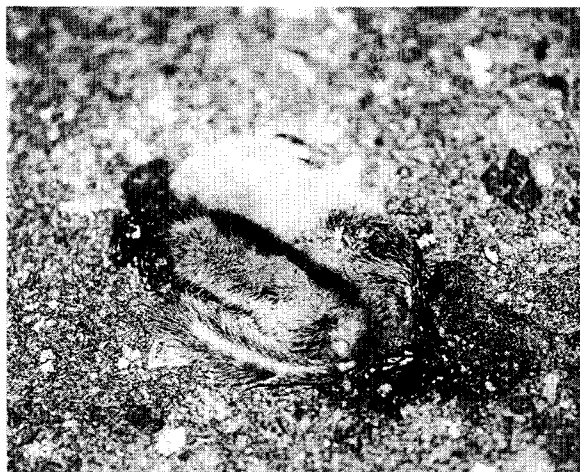


図3 道路でひかれていたヤマネ  
(下伊那郡上村行者)



図4 ヤマネのひかれていた道路、矢印は確認地点  
道路の片側はスギの人工林でもう片側は草地でその先は川となる  
(下伊那郡上村行者)

### 伊那市西箕輪羽広仲仙寺 (図1, 図5)

1998年3月29日, 降雨後の夜12:30頃, 仲仙寺にヤマアカガエルの産卵を観察に行く途中, 地面を横切るヤマネを見つけた (図6, 図7). 恐らく冬眠からさめ, 餌を求めてでてきたものと思われる. 境内の一面には雪がまだ残っていた. ヤマネはネズミと比べると走るのがかなり遅かった. 仲仙寺の境内 (図8) には, 樹洞の空いたスギの木が幾つか存在しムササビが生息している. 境内のまわりはヒノキやアカマツなどの林となっていて, 林床にはササが密生している. 社寺林の背後はそのまま経ヶ岳に続いている.

### 3. おわりに

以上のように, 上伊那と下伊那地方の2地点でヤマネの生息を確認した. いずれも人里に近いところであり, しかも広葉樹などの豊富な天然林ではなくスギなどの人工林であった. このことから, ヤマネは伊那谷において人里近辺に生息している動物であることがうかがわれる. 今後, 小鳥の巣箱を設置するなどの調査 (中島, 1993) を行えば, 伊那谷のヤマネの生息地に関する情報もかなり増えるのではないと思われる.

今回のヤマネの目撃例はいずれも地上であった. ヤマネは樹上性と言われるが, 地上もかなり利用していると考えられる. 宮尾ら (1974) は日本哺乳類雑記第3集の中で野ネズミ採集の際にハジキワナに掛かった

個体の計測データを公表している. 野ネズミのトラップは通常, 地上に設置するために, これにヤマネが掛かると言うことはヤマネが地上で採餌することがあることを示している. 伊那の仲仙寺での確認地点では付近にスギの大木や人工の構造物もあるので, 時には地上に降りて移動したり, 採餌したりしそうな場所である. しかし上村での確認地点では道路の向こうに森林はなく, 草地および川となっているために, かなり開放的な場所であった.

森林に面した道路の街灯では, 街灯に集まる蛾などの虫を狙ってヤマネが訪れることもあると聞く (後藤光章氏 未発表). 特に小雨の時には蛾が沢山街灯に集まり, なかには道路で吸水する個体も見られる. このような日には, ヤマネは活発に動きまわって餌をとるのではないだろうか. 今回のヤマネの確認は2例のみではあるが, いずれも降雨後であった.

### 参考文献

- 中島福男, 1993, 森の珍獣ヤマネ 冬眠の謎を探る. 191p. 信濃毎日新聞社, 長野.
- 宮尾嶽雄, 両角徹郎, 両角源美, 1974, ヤマネの計測値, 宮尾嶽雄編集「日本哺乳類雑記 第3集」, 49p. 信濃哺乳類研究会.
- 信州哺乳類研究会, 1978, ヤマネ. 宮尾嶽雄監修「長野県動物図鑑」, 82-85. 信濃毎日新聞社, 長野.

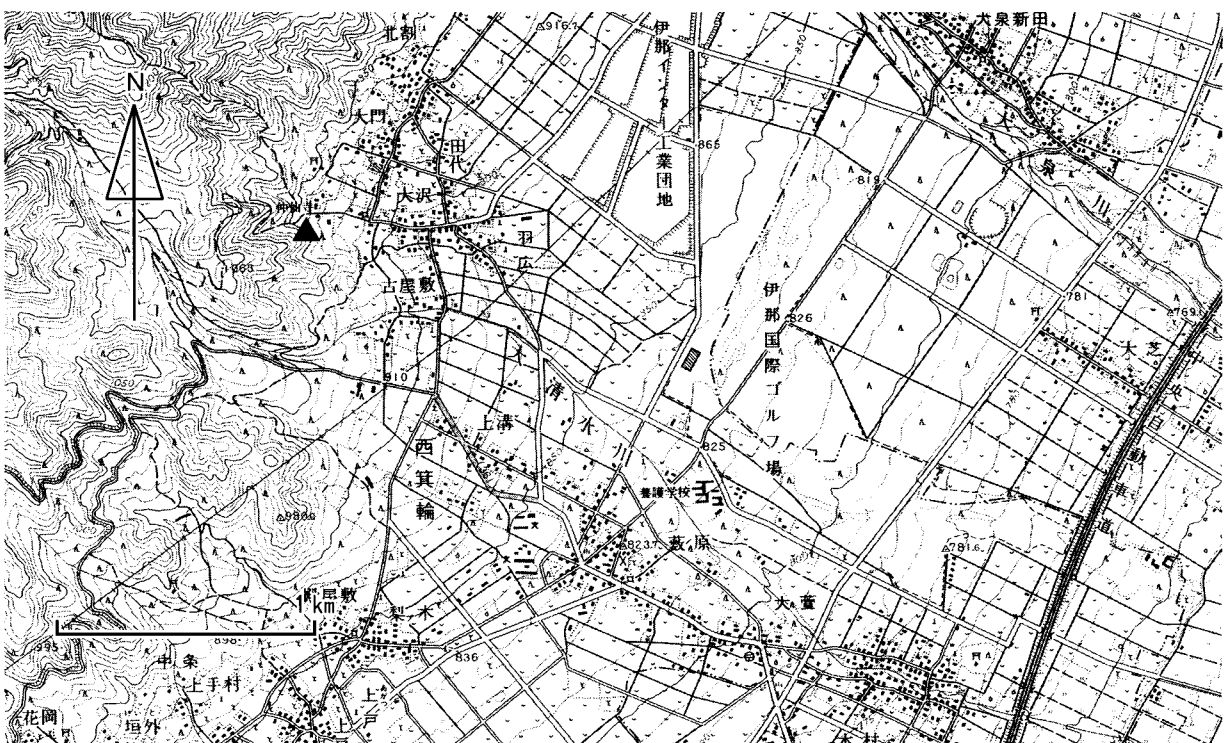


図5 伊那市西箕輪羽広仲仙寺でのヤマネの目撃地点

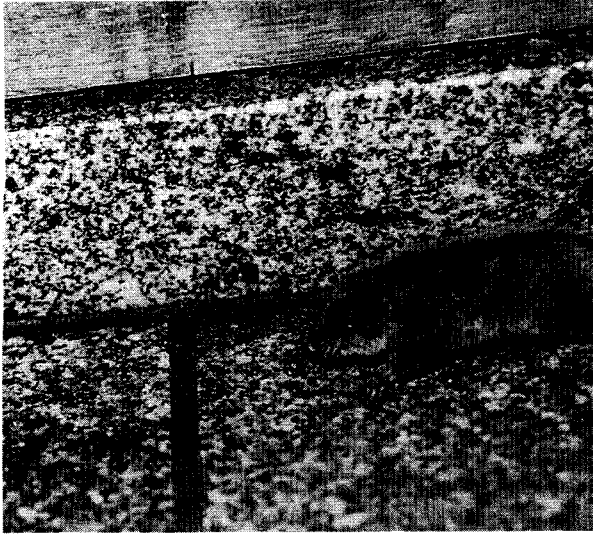


図6 地面を走るヤマネ  
(伊那市西箕輪羽広仲仙寺)

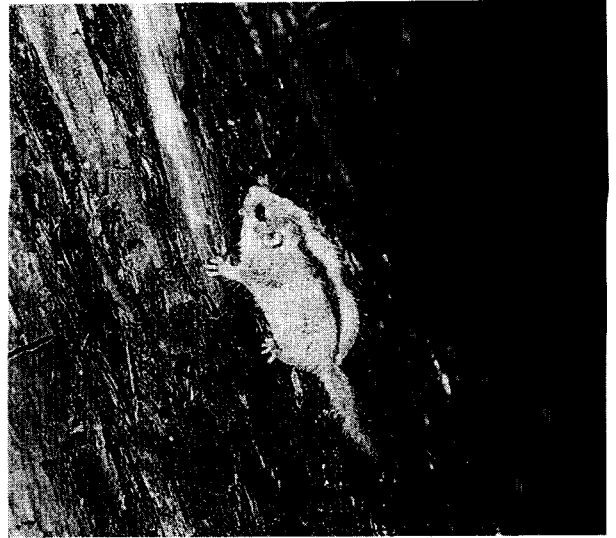


図7 スギの樹幹を登るヤマネ  
(伊那市西箕輪羽広仲仙寺)



図8 伊那市西箕輪羽広仲仙寺境内でのヤマネ発見地点